ニュースイッチ NEWSWITCH

新聞スタイル試し読みコーナー

ニュースイッチは、多彩なジャンルの取材や、業界を横断するオリジナルの企画を通して、幅広い層の人たちにニュースを届けることを目指してスタートしました。多様な視点からテーマを深堀りする特集を少しだけご紹介します。

続、色が変えるビジネス

色は人の心理に直感的にイメージを与える存在だ。どのような色が、社会でどのように使われているか、そして、その移り変わりを見ていくと、私たちの心理の移り変わりも見えてくるのかもしれない。

色が心理に与える影響

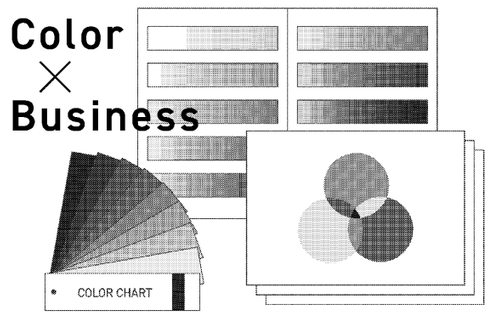
商品のイメージを伝えたり、印象づけたりするために必要不可欠な色。しかし「色を考える」といっても、「赤」「青」というような単純なものではない。どのようなターゲットに向けて、どういった気持ちにしたいか、といった計画をしっかりと立てることが成功につながる。

色が心理的に与えるもの

デザイナーやカラーデザイナーが商品のイメージを伝える色を考えるとき、赤、青などのいわゆる「色相」だけではなく、「色調」も同時に考えている。「色調」は淡い、鮮やかなどの「雰囲気」のようなものだ。

感情に対して影響力があるのは色調。例えば淡い調子のスポーツウエアと、鮮やかなものでは使う場所や用途が異なってくるだろう。赤や青などは、より具体的なものを連想させてしまうことがある。より心理に影響を与えるには色調を考えることが必要になる。

色調が心理的に与える影響は、調査によって明らかになってきている。社会や文化の差はあれ、色調が心理に与える影響はそこまで差はないと考えられている。



商品を企画し、それが誰に向けたもので、どういった場面に使われるかを考えた結果で、色は決まってくる。

チョコレートに深緑、ヨーグルトに赤

色を戦略的に使用している例として、明治の「明治 ザ・チョコレート」がある。チョコレート文化の発展への提案として「Ｂｅａｎ ｔｏ Ｂａｒ（ビーン・トゥ・バー）」をコンセプトとしたことから、クラフト感のあるパッケージにした。また、カカオポットのデザインを加え、新しさを表現した。

明治ではそれ以前にも「チョコレート効…

with コロナ時代 就活に変

ウェブ面接やウェブ合同説明会、スカウト型採用など新型コロナの感染拡大を機に就活に関わる多様なツールが注目を集めています。こうしたツールの利用拡大によって変わりゆく就職活動のあり方を追いました。

ウェブ面接

新型コロナウイルス感染症が新卒採用のあり方を一変させようとしている。学生と直接接触する機会を減らすためにウェブ面接を導入する企業が相次いでおり、トヨタ自動車も導入する。さらにコロナ収束後も一般化するとの見方が強まっている。場所の制約を受けず学生との時間調整が容易なため、対面に比べて効率がいいからだ。地方学生や留学生を採用しやすい利点もある。

その中で、ウェブ面接は相手の雰囲気を掴みにくい弱点が指摘されており、それを補う手段としてエントリーシート（ＥＳ）などの事前情報の読み込みを今まで以上に重視する企業が出ている。人材業界からは「これまでの新卒採用は一般に事前情報で3割、面接による印象点で7割を決める配分で学生を評価してきた。ウェブ面接が一般化する今後はそのウェイトが逆転する」という推測も上がる。コロナ禍によって強制的に導入が進むウェブ面接が、採用選考のあり方を変えていく。

◇

内定まですべてウェブ面接

「今年の選考は最終面接まですべてウェブで行おう」―。人材紹介を手がけるプレシャスパートナーズ（東京都新宿区）は…

新型コロナウイルス感染症の流行による休校・休園が続く現在。学習塾や習い事でも通塾やレッスン休止が相次いでいる。そんな中で、自宅にいながら学習ができるオンライン学習サービスへの注目が急速に高まっている。

休校サポート

ＬＩＮＥが社会貢献活動を担う財団として設立したＬＩＮＥみらい財団（東京都新宿区）は、新型コロナウイルス感染症に関わる休校に対応するため、3月2日よりＬＩＮＥ公式アカウント「新型肺炎休校サポートＬＩＮＥみらい財団」で無料でオンライン学習コンテンツを提供している。

当初は中高生向けのみで、教科や問題数なども限られていたが、要望の高まりを受け、小学生向けの学習コンテンツも追加した。同財団公共政策室副室長の村井宗明氏は「今後のＥｄＴｅｃｈにはＳＮＳの利用が不可欠」と話す。

休校うけ急遽開設

同財団は2019年12月に発足。教育関連の取り組みをさらに充実させるため、学研、数検、市進、ケンブリッジ英検、東京都英語村をパートナーに迎えた。具体的な取り組みについて話し合っている最中、新型コロナウイルス感染症によりさまざまな自治体で休校が決定。当初は千葉県市川市からの相談を受け独自サービスとして開発を進めていたが、急遽全国版の開発に切り替え、3月2日にリ…

急接近、シニアとオンライン

コロナ禍によりシニア層もオンライン化に拍車がかかるのか。サービス、通信会社、消費行動や心理などを取材した。

ウェブサービス

直接対面するコミュニケーションが難しいコロナ禍において、私たちと世界を繋いでいたオンラインサービスが改めて脚光を浴びている。中でも今までデジタルデバイスやオンラインサービスにあまり触れてこなかったシニア層でコロナ禍をきっかけに一気にサービス導入が進む可能性がある。

◇

「楽しみ」だけじゃない

総務省の2018年度調査では、60代のスマホ利用率は60・5％。前年の45・1％に比べ大幅な伸びとなっている。

ただし、新型コロナウイルスの流行後には、「楽しむための活用」以上に、「生活インフラ」という面が徐々に強まってきている。

オンラインサービスに明るい「アクティブシニア」の中では、「新型コロナウイルスの流行をきっかけに、オンラインで行うことで増えたこと」のトップが「ネットニュースを読む」だった。

「新型コロナウイルスに関する情報収集手段」としても、82・7％の人がネットニュースと回答している。日々刻々と状況が変わる中で最新の情報を得られるという点や、地域や個々人で知りたい情報が違うといった多様なニーズに対応できたというのが、ネットニュースが支持された理由だと考えられる。

一方で、外出自粛に伴い「ECが伸長するのでは」と予想されたが、利用が増えたと回答した人は12・9％とあまり伸びが見られなかった。ネットスーパーも同様に4・1％にとどまる。

ただし「今後増えそうなことは」という質問項目ではECで25・3％、ネットスーパーで14・1％とそれぞれ回答があり、利用したい気持ちと実際の行動とのギャップが浮き彫りになった。この背景には、シニ…

新聞だけじゃ、読みきれない。

webメディアには、字数の制限を受けずにボリュームのあるニュースを伝えられる力があります。ニュースイッチオリジナルの企画・特集では、連載やインタビューなど日刊工業新聞本紙とはひと味違う切り口で様々なニュースを発信中です。日刊工業新聞社は、これからもメディアの特性を研究し、より多くの方に情報を届ける努力を続けていきます。

＼ 2019年11月に全面リニューアル！ ／

オリジナル特集の続きはwebで ▷

URL：https://newswitch.jp/（右のQRコードからもアクセスできます）